いんとう 咽頭癌で闘病生活を送っている津田氏からのメッセージ

2004年11月15日

* 次の文書は、津田^{ただひさ}忠久氏（65歳）から託されたメッセージの原文です。ご本人は声が出せず、出席できる体力がないのでこのような形としました。
* 氏は国際派のビジネスマン。オーストラリア勤務の2000年2月に咽頭癌が発病したが回復。アメリカ勤務時の2003年3月に癌が再発し、2004年4月に日本で治療するため帰国し、現在治療中です。

- 1 日本に帰国後、混合診療（の禁止）制度がある事を知り、驚いた。アメリカやオーストラリアにはこんな制度はない。
- 2 ^{いつ}何時かかる法律が生まれたのか背景を知りたい。誰が総理で、誰が厚生大臣であったのか。この法律を委員会と国会で審議・承認を受けた時の状況と背景は如何。又、それを国民に知らせた時の国民の反応は如何であったのか。
- 3 理不尽、人権無視の法律と考えざるを得ない。何故、保険適用治療や薬が保険外治療や薬と一緒になされた時、全てが保険外となり全額自己負担となるのであろうか。
- 4 我々は健康な時に所得の一定額を国に納め、病気にかかった時の経済負担を軽減する為に保険に入る。まして日本では国民皆保険で全員が好むと好まざるに拘わらず保険に入らなければならない。一生健康で或いは風邪をひくくらいで過ごせた人は保険料は元がとれない。それでも安心料として或いは国民全員が相互扶助の精神で保険に加盟しているのだと思う。
- 5 混合診療（の禁止）はかかる基本的な保険制度の理念に相反するのではないか。

- 6 行政の言う安全性、有効性とは何か。苦しむ患者が医師と相談の上自己責任と自己負担において、その治療なり薬を服用する時、他の保険適用治療や薬も対象外となるのは理解出来ない。
- 7 厚労省は保険財政或いは国家財政が苦しい折、あらゆる手段を講じて患者からお金を徴収したいと考えているのではないか。混合診療（の禁止）もその一環と思う。
- 8 厚生労働省の公務員は何人いるのか。過去どういう姿であったのか。効率や生産性はどうなっているのか。
- 9 安全性や有効性を確認するのに何人の人間が何時間割けば良いのか。その間患者が混合診療の為その治療や薬を服用せず死んだ場合、行政は補償をするのか。
- 10 混合診療（の禁止）に限らず日本にある規制は概して国民の為、国家の為にあるのではなく、官僚や行政の利益の為にある事がアメリカやオーストラリアと比し多すぎる。
- 11 法律が立法化された時点で国民が何も反対しなかった責任は国民一人一人が負わねばならないが。
- 12 全ては官尊民卑の精神であり、お上の現場無視主義からでた規制だと思う。
- 13 厚労省の職員がガンになり生死をさまよい、保険適用外の治療を医師に進められたらどうするのであろうか。

(1) 日本に帰国後混合診療制度が
争を起し、驚いたアメリカやオーストラリア
にはこんな制度はない。

(2) 何故か、この法律が先ず日本の背景
を知らない。国会が税関の増徴が厚生大臣
の「あり」の、この法律を国会の承認
を受ける時、状況と背景の如何。又、
これを国民に知らせる時、国民の反応
は如何であるか。

(3) 確たる人権無視、法律と罰
を以て得る保身保険適用を
存や業が保険外治療や業と一掃に
可なり、明令法が保険外と列せ、親
自己負担とする。やむを得ず。

(4) 病は健康な時の所得、一定分は
国家の負担、病急を告ぐ、
自己負担を
経済

健康保険の加入者、その日本での
国民皆保険の命が守られること
の目的、保険の加入者が、一先
健康で、その風邪をひくこと
人の保険料は之がとれ、その
安心料、その国民皆保険相互
扶助、精神で保険の加盟に
これら

(5) 混同、誇りのか、喜ぶ、その保険料
その健康の相互、その

(6) 行政、その安全、有効、自己、自己
要、その思、その教師、相違、自己
責任、自己、自己、自己
その、自己、自己、自己
その、自己、自己、自己
その、自己、自己、自己
その、自己、自己、自己

(7) 労働者の保障財政としての国家財政が
考へられたりした手段を以て思ふと
国家に徴収した税金を考へて了るに
混合経済と云ふ一節を見よ。
~~混合経済と云ふ~~

(8) 労働者の福利の公共施設は誰が居るのか。
過去どうなつたか。競争の
発展はどうか。

(9) 安全は（有知）に確認されたか
何人か何時間何日か
この道着か混合経済が為る
考へるに服用せぬ人々も行政
の補償を要する。

(10) 混合経済の限界を以てしては
は如何に国民の利益を以てして
行政の利益を以てして
第1に如何にすべきか。